

平成30年度（第Ⅱ期）教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の助成事業

実施報告書

平成 30 年 9 月 30 日

所属・職名：地域文化学科 国際文化講座 准教授
氏 名：高村竜平

○事業概要

韓国・ソウル市の聖公会大学校韓国語学堂で開かれる、夏期短期研修に参加し、韓国語教育と伝統文化体験、聖公会大学校学生との交流等に参加した。プログラムは8月4日から19日までである。立教大学・大阪産業大学・恵泉女学園大学・香川大学などから合計61名の学生が参加し、本学の学生は地域文化学科2年生1名、同4年生1名および国際資源学部1年生1名であった。宿泊には聖公会大学校の寄宿舍が提供され、引率者も同じ寄宿舍に宿泊した。

初日にプレースメントテストを行い、5段階のクラス編成を行った。授業は平日の午前中に50分単位の授業を合計590分を行い、そのほか聖公会大学校学生との交流の時間が90分×2回、民俗音楽および人形作り体験がそれぞれ120分、演劇鑑賞を120分という文化体験プログラムがあった。とくに学生との交流の際には、直接同世代の学生同士で韓国語と日本語によるコミュニケーションをとる貴重な機会であった。授業およびスピーキング・ライティングテストの内容により、最終日に成績表と修了証が与えられ、本学の3名の学生はいずれも無事修了した。

研修日程

日時	午前	午後
8月4日（土）		全員入国
8月5日（日）	自由時間（日常品買い物など）	
8月6日（月）	入学式・プレースメントテスト	自由時間
8月7日（火）	授業（50分授業×4コマ）	民俗音楽体験（120分）
8月8日（水）		授業（50分授業×2コマ）
8月9日（木）		韓国人学生とのコミュニケーション（90分）
8月10日（金）		自由時間
8月11日（土）		
8月12日（日）	自由時間	
8月13日（月）	授業（50分授業×4コマ）	紙人形制作（120分）
8月14日（火）		自由時間
8月15日（水）		韓国人学生とのコミュニケーション（90分）
8月16日（木）		ミュージカル観覧

8月17日（金）	授業（90分）	修了式
8月18日（土）	自由時間	1名帰国
8月19日（日）	2名帰国	

○事業の実施により期待できる効果と意義

今年度はプレースメントテストの結果により1-1、1-2、1-3、2-1、2-2、3-1の6クラスが開設されたが、本学の学生は1-1、1-3、2-2にそれぞれ1名ずつ配属された。2-2クラスの学生は当初3-1クラスに配属されたが、初日の授業を受講して本人の希望で2-2クラスに移動した。本学および日本での一般的授業と異なり、直接法（教師の説明自体を韓国語で行う）により授業が行われる。またグループワークやスピーチなどの発表が多く取り入れられることもあり、とくにリスニングとスピーキングについて効果的である。

また語学教育を受けるだけでなく、同世代の韓国人との直接的なコミュニケーションの時間もある。さらに授業時間だけでなく、文化体験プログラムのない日や週末には自由時間があり、自分たちで地下鉄などを利用しソウル市内を行動することで、学生たちに実際の韓国語使用の機会も得られたことも貴重であった。

本研修への参加によって、実地での韓国語使用が可能で、また現地の事情や人々の考え方を直接知ることができ、現在難しい関係にある隣国への理解が促進される。さらに同じく韓国に関心を持つ他大学の学生との交流も行うことができたと考える。

また、研修期間中に聖公会大学校事務局の方と部局間協定についての細部を検討することもできた。

○事業期間全般にわたる感想と課題

事業の全体的な進行や使用施設は昨年度とほぼ同様であり、若干授業時間が増加したようであった。本年度から初めて参加した大学も2校あったが、うち1校は2-3人の少人数であるが実施可能な研修を探してこのプログラムにたどり着いたようで、本学と共通した課題を持っている学校がほかにもあることがうかがわれた。参加者は昨年のおよそ倍となり、このようなプログラムの需要の高さを物語っている。

コミュニケーションの時間には一対一での対話やグループでの会話、およびゲームなどの実践があった。このクラスもやはりプレースメントテストの結果により5クラスに分けられており、最も低いクラスでは補助的に日本語が用いられていたが、可能な限り韓国語を使ってコミュニケーションをとっていた。コミュニケーションの方法については聖公会大学校の側で事前の研修や資料などが用意されており、本事業にかける先方の熱意が感じられた。

最後になったが、研修を進行して下さった聖公会大学校韓国語学堂の教員の皆さんおよび事務局のみなさん、研修参加の各校の先生方特に立教大学の石坂教授と大阪産業大学の藤永教授、本基金の助成対象に選定していただいた学部国際交流委員会の方々、本基金の原資を寄付して下さったみなさんに、おかげさまで研修が無事終了したことをご報告し、深くお礼申し上げます。



聖公会大学校全景



寄宿舍食堂での食事



民俗音楽体験



紙人形制作



修了式



海外研修～聖公会大学校 in 韓国

14 泊 15 日の滞在で感じたこと

教育文化学部 地域文化学科 人間文化コース | 1515520 | 加藤悠理 | 2018/09/27

はじめに

私がこの研修に参加しようと思った理由は、大学に入学してから、3年間、韓国語を学んだことを活用してみたいと思ったからである。大学の授業だけでは補えない生活に密着した生きた会話をはじめとした、語学の習得・実践的な会話力の向上を目標とした。また、地域文化学科の国際文化領域として3年間、様々な国の文化に触れてきて感じたこと、考えたことを活かし、文化の特徴、特に日本と異なる文化について知りたいと思った。日本と韓国は隣国で古くから人々の交流があり、環境・生活や文化でも似ている所もあるように感じる。その上で、それぞれ独自の文化が発展しているため、実際に自分の目で見て、違いを実感し、また日本文化との共通点や融合などもあれば見つけたいと思った。

目的

- ソウル市内を一人で歩けるような語学力を身につける（地下鉄で目的地に着く、通行人に目的地を聞く、スーパーなど生活に関したお店での買い物、飲食店での食事 など）
- 文化の違いについて考える。
- 韓国の映像文化、文学に触れる。
- 歴史的建造物を訪れる。
- 食文化に触れる。

研修データ

聖公会大学校 韓国語学堂（韓国・ソウル市）



聖公会大学校の入り口

おおよその出費は以下の通り

飛行機代 67,940円（秋田～羽田～金浦、金浦～東京）これはすべてANAを使った金額。LCCを使ったりなるべく早く予約すると、もう少し安くなると思う。

現地での出費 約7万円 食費、交通費、お土産他、

合計 13万円 この他に授業料と、宿泊費（約11万円）がかかる。

パスポート代（3万）や、保険代（16日分で8000円）もある。

金額として安くは決していないけれど、これだけを払う価値はあると思う。

持って行ったほうがいいもの

- 日焼け止め（日差しがかなり強い）
- 虫よけ（蚊対策、大学も緑が多い）
- ハンガー（洗濯を干すところがないから、最低でも3つあれば楽）
- 海外用ドライヤー（アンペアや電圧を確認して使えるものを）
 - 電圧変換機や、コンセントの形の変換機は、海外に行くならもちろん必須だが、使えると書いていても、長さが足りなくて使えないものもある。聖公会大学校の寮では、コンセントの穴が深い。その為、日本で売っていた韓国使用可のコンセントの変換機が1つ使えなかった。要確認。また、PCや、携帯の充電器は、今どの国でも使えるものが多いそう。こちらも確認すべき。
- 常備薬（これも海外に行くなら必須だが、辛い物が多い韓国では胃腸薬はあって損はない。痛み止めもあれば便利。私はなかったが、腹痛を訴える人が多かった。腹痛などでも授業を休みすぎると、成績がもらえない！）
- エコバック（韓国ではスーパーやコンビニで袋がもらえない！）
- 薄手のカーディガン（これは私が実際に持って行ってよかったと感じた。夏だからと半そでしかない、室内や天気の良い日少し寒く感じることもある）

寮での生活

- 寮は、今回秋田大学から3人で行ったため、3人部屋（2人部屋もある）。学期中ほんとにここで生徒が生活しているのかというほど狭く感じたが、その分全員学年が違うのにもかかわらず、仲良くはなれたと思う。他大学からは男子もいて、人数が少ないため、他大学でも同じ部屋だったが、親しくなっていたようだった。一人一つ、机、ベッド、クローゼットがあり、勉強するにも、洋服を出すにも困らなかった。ただ、全員一気にキャリーバッグを広げるのは厳しかった。
- クーラー完備のため、部屋は涼しいし、洗濯もよく乾いた。ただ、電気が手動のところ（スイッチでオンオフ）と、自動の所（センサー）があり、夜や明け方トイレに起きると、部屋がすごく明るくなる。最初のうちは、同じ部屋の人に迷惑かけないか心配になるが、後半はみんな同じだからあまり気にしなくなる。
- ベッドは普通のものだったが、掛布団がとてつもなく薄い。クーラーの温度を間違えると夜とても寒い。寝る時用のはおり物があるといい。
- シャワーは、そんなに不便はなかった。だが、洗面所と段差がないため水が流れていくこともあった。私たちはいらないタオルをマットにした。これに関わらずタオルは捨てるつもりで持って行ってもいいと思う。服などを買って荷物増えるから。
- 部屋にゴミ箱がないので、スーパーの袋があれば便利。
- トイレは、絶対にトイレットペーパーを流さないこと！詰まる。私たちは初日で詰まらせた。仕様済みトイレットペーパーを捨てるゴミ箱はあるが、ここにも袋あるといい。

研修報告

韓国での生活

8月4日に韓国に渡って、まず感じたことは、とても暑いということだった。秋田に比べ、緯度が低いため、暑いことはわかっていたが、湿度も高くもわっとしていて、日本での暑さとは、違うと感じた。聖公会大学での授業は、6日からだったので、日用品の買い足しや、換金などをはじめの2日間で行った。初日からトラブルに見舞われ、8月5日には先生と別行動をすることになったが、秋田大学の韓国語の授業で学んだ文法を駆使し、その日の目的を達成することができた。この時に感じたことは、韓国の人々はとても優しいということだ。今まで秋田に住む、何人かの韓国人の方と関わったことがあるが、思ったことを何でも言うし、早口できつい印象があった。しかし、現地で話しかけた方々は、どの人も嫌な顔一つせずに、つたない韓国語を話す私たちの言いたいことをしっかり聞き、丁寧に対応してくれた。時には、その場所までわざわざ連れて行ってくれる人もいて、とても親切で、面倒見のいい気質だと感じた。私は、韓国滞在中に、多くの一般市民の方に話しかけ行動したが、老若男女問わず、優しい方が多かった。研修の終盤には一人で買い物や、観光に出かけることも多かったが、地図アプリや翻訳機能に頼らず、自分の言葉で伝え、相手の返答を聞き取るという、語学学習にふさわしい有意義な経験ができたと思う。これも現地の人々の優しさがあるからこそだと感じた。

現地での交通手段は、基本的に地下鉄を用いた。ソウル市内は地下鉄があれば、ほとんどどこへでも行けるほど、地下鉄が発達していた。日本とは違い路線が番号表記のため、とても分かりやすく感じたが、一つの番号の路線でも、複数方向に向かうものもあり、間違わないようにしなければならず、初めはとても苦労した。そんな地下鉄の中で、日本との違いを一番感じたところは、ほとんどの人が電車内で、電話をしているということだ。日本であれば、周りの人から嫌な目を向けられる。しかし、韓国ではほぼすべての人が、電話をしているといっても過言ではなかった。また、電車に乗っていてもマナーモードにしていない人も多く、着信音が鳴り響く場面にも何度も遭遇したが、気に留めている人はいなかった。また、車内での物売りや宗教勧誘も頻繁に目にした。レジャーシートやトートバックなど、あらゆるものを売っていたり、宗教のことを大声で話したりしていた。物売りの人は、一車両に一駅だけ乗り、商品の説明と金額を連呼していた。その車両に乗る多くの人は、目をそらし、携帯を見るなどの行動をとって、少し異様な光景に思えた。韓国滞在中に、購入する人や気に留める人を見ることは残念ならなかった。



地下鉄内の様子

多くの人が携帯電話を持ち、電話をしたりゲームをしたりしている



優先席の他に、妊婦配慮席があった。

聖公会大学校での研修

私たちは、聖公会大学の寮に宿泊しながら、計 1 1 日間授業を受けた。レベルテストなどを経て、クラス分けされ、韓国語での授業に励んだ。どのクラスも、クラスごとに合わせた文法を習い、それを用いた発表や、ゲーム、作文などを行うようだった。私が所属したクラスでは、文法自体は難しくなかった（すでに習ったものもあった）が、ネイティブとしての使い方や、細かいニュアンスを学べたため、すごくよかった。また、韓国語で授業を受けるため、リスニングに自信のなかった私にはちょうど良いクラスだと感じた。クラスでは、先生が交代で二人いるが、教え方も話し方も違う二人から授業を受けることで、いい意味で耳が鍛えられたと思う。日本語を少し話せる方ばかりだったので、自分の語力に自信がなくても参加できると思った。また、授業時間も積極的に話すことをさせてくれるし、授業の合間の休み時間にも、「昨日はどこに行った？」「ここのお店がおすすめだよ」など、気軽に韓国語での会話ができる空間を作ってくれるので、会話力を磨くのにとってもいいと感じた。

また、この研修では、秋田大学だけではなく、他にも 6 大学が参加している。1 ~ 2 年生が多かったが、同じクラスになった他大学の日本人学生との交流も、研修を有意義なものにしたと感じた。授業では 2 度の発表テストがあり、そのうちの 1 回は、ペアでの発表だった。私のクラスでは、「約束」をテーマとした、発表をすることになり、ペアの相手と、面白い発表ができるように工夫した。原稿を考え発表するまでの期間が短く、セリフを覚えるのが大変ではあったが、みんなに理解してもらいやすくするために、表現を工夫するなど、韓国語での表現力の幅が広がったと感じた。同じクラスの別のペアの発表を聞き、聞いたことから、すぐに質問を考える、感想を言うという経験も出来てよかった。



ペア発表の様子

また、授業では、座学だけではなく、絵をかいたり、折り紙をしたりと、普段できる事であっても、韓国語で説明を聞きながらやるということが、とても新鮮で楽しかったし、他校の学生との交流にもなった。最後の日にはクラスごとの発表会もあり、私のクラスはみんなでダンスをした。みんなで夜中に教室で練習したことなど、韓国語に関係ないかもしれないが、とてもいい経験だった。



授業風景



最後の日、ダンスの発表



同じクラスの仲間と

韓国人学生とのコミュニケーションや、文化体験なども行った。韓国人学生との会話では、好きな韓国ドラマについて話したり、韓国にきて疑問に思ったことを聞いたりした。辞書を使って単語を調べながらの会話だったが、同じくらいの年齢の人と話すのは、先生や、町中で話す人と違い、いろいろな話ができ楽しかった。

文化体験では、サムルノリという太鼓などをたたく伝統芸能や、人形作りを行った。どちらもいい思い出になった。



韓国人学生とコミュニケーション



サムルノリ体験



紙人形作り

歴史的建造物を訪れる

私が韓国語に興味を持ったきっかけは、韓国の歴史ドラマにはまったからであった。日本では吹替が多く放送されているが、韓国人俳優・女優さんの声でドラマを楽しみたいと感じ、勉強を始めた。ソウル市には、多くの歴史的建造物が残っており、それらがドラマのロケ地となっている。そんなロケ地を訪れてみたい、また、日本の落ち着いた色合いの歴史的建造物とは違い、鮮やかな色が特徴の歴史的建造物を見たいと思い、景福宮、昌徳宮、北村韓屋村を訪れた。

近くにはチマチョゴリをレンタルする店がたくさんあり、チマチョゴリを着ると入場料が無料など、欧米諸国からの観光客も多く、観光地として栄えていたが、門や柱の赤色の鮮やかさ、建物のつくりなど、日本との違いを堪能できた。昌徳宮にある後宮（シークレットガーデン）では、豊かな自然に囲まれた建物を見ることで、非日常を感じられた。また、それら歴史的建造物がビル群の間に存在していることに驚いた。景福宮では門を挟んでかつての王宮と、現代のビジネス街が広がっている状況に、歴史の継承と、国の発展という正反対のものの共存がうかがえてとても興味深く感じた。



景福宮



きらびやかな内装



門を挟んで全く違う景色



北村韓屋村



昌德宮



昌徳宮の後宮にて

同じクラスの友達と一緒に

映画「工作」

はじめにでも述べたが、私は地域文化学科の人間文化コース国際文化領域で、様々な国の文化について学んできた。なかでも、映像文学にとくに興味を持ち、アメリカ映画（いわゆる洋画）をはじめとする、イギリス、中国、ロシア、フランスなどの映画を見てきた。そこで、今韓国ではどんな映画が見られているのか、実際に映画館に足を運び、見てみたいと感じ、映画を見てきた。事前情報として、引率して下さった高村先生から、いくつかの映画のタイトルとどういったジャンルのものなのかを聞いて、映画館に向かった。

私が訪れた映画館は、滞在していた聖公会大学の最寄り駅（オンス駅）から、4つほどソウル方面へ向かったところにある、クロ駅に直結する大型複合施設である。5階から8階までのあるフロアが全部映画館で、とてもにぎわっていた。予約券を発見する券売機の上に上映スケジュールが並んでおり、チケットを買おうとしている男性と女性一人ずつに おすすめを聞いてみた。するとこの「工作」が今の人気だと教えてもらった。チケット販売カウンターは並んでいなかったが、待ち番号を発券してから、買わなければならなかった。日本ではあまり見たことがないなと感じた。劇場へ入ると、すでに多くのお客さんがいて、人気そうだなと感じた。

あらすじは、1990年～の韓国と北朝鮮が舞台で、北朝鮮の核の実態をつかむべく、工作人員として韓国から北朝鮮へ送られた一人の男の物語だった。実話をもとにしている。工作人員とばれないようにスパイ活動を行う中で、北朝鮮のある家族と親しくなる。金正日に接触することにも成功するが、入手した情報をリークしたことで工作人員だとばれ、会えなくなってしまう。最後、南と北の親睦イベントで再会して幕は閉じる。

全編韓国語のため、正直わからない箇所も多く、周りが笑う中、ちんぷんかんぷんのところも多かった。特にセリフは、難しかった。ナレーションで何となく情報を得て見ていたが、やはり映画は視覚に訴えている部分が多いため、どういう場面かは通じていたと思う。金正日にかなり似せてきている所や、金正日が犬を連れていているところなどは、私でも面白いと感じた。また、最後、再会するシーンでは、音声がほぼナレーションだったこともあり理解ができたし、役者の表情からや、編集の仕方からもとても感動して泣けるシーンだった。



ポップコーンの自動販売機

食事

現地では、たくさんの韓国料理を食べた。日本でもなじみのある、チーズタッカルビや、トッポギ、ピビンバであったり、ドラマなどでもよく出てくる、お粥や、カップラーメンなども食べた。寮の周りにも食べ物屋は多く、宅配などもし、韓国の食生活を味わえたと思う。また、スーパーで食材を買い、自炊も行った。チュオタンというドジョウ鍋など日本にいたら作ることのない料理を体験することができてよかった。

なかでも、私が一番気に入った韓国料理がコムタンである。牛骨からとったスープでできており、豚骨よりもあっさりとしている。けれど味がしっかりついていて、それだけでご飯が食べれるほどであった。

現地のスーパーで、牛のだしというものを買い、日本でも作ってみた。味付けは少しの塩コショウだけだったが、本場の味そっくりによくできたと思う。



その他、気になったこと・学んだこと

韓国に滞在して気になったことをまとめる

1. ビルの屋上に緑が多いのはなぜ？

防水材が緑だから。ただ、防水材には他の色もあるため、韓国人が緑が好きだからだそう。

2. 車の窓ガラスが黒が多いのはなぜ？

暑いから日焼け防止だそう。

3. 誕生日には何を食べる？

わかめスープを食べる。わかめを切らずに長くして食べることで、長寿を願うらしい。

さいごに

今回、この研修に参加でき、とても有意義な体験ができたと思う。ただ、韓国語を学ぶという意外にも、文化や生活の体験や、他大学の学生との交流など、今回の研修で行ったことすべて、自分の財産となると感じた。同じ観光地に行くのでも、ただ人と話すにしても、文化や背景などを知って行くだけで、それは学びとなり、自分の糧となる気がした。

また、私はこの研修期間中に誕生日を迎えたが、他大学の子たちにも祝ってもらい、すごくうれしかった。先生が買ってきてくれたケーキを食べたこともいい思い出である。なかなか海外で誕生日を迎え、いろんな人に祝ってもらうという経験はないと思うので、個人的にとっても印象深かった。

今回の研修では、とても多くの方にお世話になった。高村先生をはじめ、一緒に行った後輩達、韓国でお世話になった、聖公会大学の方々、他大学の友達、そして研修に行くために協力してくれた、家族と、補助金で支援してくれる秋田大学教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の寄附者の方々。本当にありがとうございました。

来年以降もぜひこの研修が続いてほしいと思うし、何より多くの秋田大学生に参加してもらい自分を変える、成長させる手段としてほしいと感じた。



夏期韓国研修報告書

教育文化学部 地域文化学科 人間文化コース 1517524 亀岡 雅由

私は、8月4日から18日まで夏期韓国研修に参加した。秋田大学以外にも他に6つの大学が参加して、6つのクラスに分かれて授業を受けた。私は一番下のクラスだったが、二年生になってから韓国語の勉強を始めたので授業についていけないか不安だった。

担当の先生は日本語を全く話せない先生だったが、そのおかげで先生の話聞き逃さないようにとても集中して授業を受けることができた。また、わからない文法が出てきたりしたときは周りの人と話し合ったりすることが多かった所以他大学の人とも交流を深めることができた。授業は、一日50分×4コマの日が多かった。文法をやったり、ゲームをしたり、自己紹介などのコミュニケーションをとる時間もあった。ゲームは先生も参加するので先生との距離も近くて楽しかった。午後に芸術鑑賞や韓国文化に触れる時間もあった。授業で一番記憶に残っているのは、31ゲームである。これは、1～31まで数えていって一回で3つまで数字を言えて31と言った人が負けというゲームでだ。私は数字を覚えるのが苦手だったが、このゲームのおかげですぐに言えるようになった。このようにレベルに合わせた授業をしてくれるので楽しい時間を過ごせた。

次に私が旅行中印象に残ったことについて紹介する。まず一つ目は、漢江公園サマーフェスティバルである。このイベントは2013年から始まったソウルを代表する夏のイベントで、水遊び、映画祭、公演、サーカス、生態体験、ヨット、サイクリング、グルメなど多彩なプログラムが各所漢江公園で繰り広げられ、家族や恋人、友達と一緒に好きな日程とプログラムを選ぶことができる。漢江沿いには12カ所の漢江市民公園があり、私はその中の「汝矣島漢江公園」に行った。降りる出口を間違えてしまい15分ほど歩いたが無事に到着することができた（ヨイナル駅2番出口を出るとすぐ左側にある）。漢江に近づいていくと、段々と人が増えてきて盛り上がっているのがわかった。私は毎週土曜日に開催されているという橋の下の映画祭を目当てに行ったが、到着した時にはそのイベントは終了してしまっていて参加はできなかった。しかし、漢江公園沿いには屋台があったりアート作品のようなものがあったり、美しい夜景も楽しむことができた。多くの人が近くのコンビニで買ったカップラーメンやテイクアウトのチキンを持ち寄ってシートを敷いて、お祭りを楽しんでいる姿は印象的だった。以下は、汝矣島市民公園のイベントの写真である。



二つ目は、韓国で見かけた日本語のことである（以下の写真はすべて旅行中に私がソウル市内で見つけた日本語の看板などの写真）。



(画像1 ヨックク駅前)



(画像2 明洞駅周辺)



(画像3 明洞駅前)

韓国に来ているのに日本語を見つけるとテンションが上がって写真を撮っていたが、少し意味が分からなかったり、ずれていたりするような表現は面白かった。画像1は、私たちが通っていた大学の隣駅にある居酒屋の写真である。「さしみ」、「こうのと」と書かれている。「さしみ」は、日本でもよく食べられるお刺身のことだと思うが、「こうのと」とはなんのことかわからなかった。しかし、ローマ字表記で居酒屋と書かれていて日本呼びをあえてしているところが印象的だった。また、ヨックク駅はソウル市内でもはずれの方で日本人も少ないと思ったが日本語で書かれた看板があることに驚いた。画像2は、JUMP公演の後に本屋を探している時に見つけた。「青春の通り（屋台）」と書かれた通りは飲み屋街にあってどんな意味があるのか気になった。画像3は、明洞駅前の写真で、私が研修中に見つけた日本語の中で一番変な使い方を感じた。「やさ男かばん」という店名のかばん屋さんの店主がやさ

おなのか、、、。日本人が見ると不思議に感じる日本語を見つけてどんな意味があるのか考えるのは面白かった。

研修中は道を歩くだけで建物の違いや文化の違いを感じることができて様々な発見があった。韓国語に常に触れることでもっと勉強したいという思いも強くなった。二週間の中でたくさんのことを学ぶことができ、この経験を自分のこれからの生活に生かしていきたいと思った。